農民大衆の信頼を回復するために

七八　エヌ・オシンスキー*へ

一九二一年三月一日

同志オシンスキー！

昨日、イヴァン・アファナシエヴィチ・チェクーノフに会った。彼は、すでに1919年、勤労農民大会の問題のことで私のところへ来たことのある人だった。いま彼は、地方から始めたほうがいい、と言っている。

彼は、共産主義者には共鳴しているが、党へははいろうとはしない。というのは、教会へ通っているし、キリスト教徒だからだ（教会の儀式には反対だが、信仰はしていると言っている）。

彼はいま経営の改善をやっている。ニジニーノヴゴロド県とシンビルスク県をまわってきた。農民はソヴェト権力にたいする信頼を失ってしまった、と言っている。税でなおすことはできないだろうかと聞く。できる、と考えている。自分の郡では、労働者の援助をうけて、よくないソヴェト官憲をいいのに代えさせたと。

これこそ、われわれが農民大衆の信頼を回復するために、全力をあげてとびつかなければならない人物だ。これは基本的な政治的課題で、しかも猶予のならないものだ。ぜひお願いするが、「機関的」な立場にあまり夢中にならないように、この立場から、あまりやきもきしないようにしたまえ。それよりも、農民にたいする政治的態度にもっと注意をはらってほしい。

私の考えでは、いますぐチェクーノフを「つかまえる」、つまりわれわれの仕事へ引きいれることが必要だ。そうするにはどうすればいいか？　考えるべきだ。おそらく、すぐ「勤労農民ソヴェト」か「党外農民ソヴェト」（チェクーノフが「ぶつくさ屋」すなわち正真正銘の富農やソヴェト権力の敵とよぶような連中を入れないためには、たぶん、後者の名称のほうが慎重だといえよう）を創設する（というよりも、創設に着手する）べきだろう。チェクーノフをこの種の機関の組織（または準備）にかんする農業人民委員部の全権委員に至急任命すべきだ。いますぐ彼に、シンビルスク県へ急行する（われわれには余剰穀物をもった県からの相談役と仲介者が必要だ。仲介者は二人のほうがよい）よう依頼するとともに、シンビルスク県（そこには彼の知合いがいる）からロシア人で、耕作農民で、勤労農民と労働者の味方で「ぶつくさ屋」ではない年輩の**党外**農民を当地のわれわれのところへ連れてくるという任務をあたえるべきだ。もう一人探しだすこと。チェクーノフ+シンビルスク人+非穀産県からもう一人と、三人組のほうがよい。この「老人」三人組（彼らが全部無党派でもあればキリスト**教徒**でもあるなら、申し分ないが）を、われわれはすぐ、評議権をもった参与会員にするか、「党外農民ソヴェト」の中核にするか、あるいはそういった機関にするだろう。

以上を早急に、いますぐやらなければならない（彼は明後日、出発するつもりでいる）。

鉄は熱いうちに鍛えよだ。返事をくれたまえ。

共産主義者の挨拶をもって

レーニン

＊　**オシンスキー、エヌ（オボレンスキー、ヴェ・ヴェ）**（1887 － 1938 年）――1907年からの党員。1921－23年、農業人民委員代理。

第 45 巻 P64~65　『エヌ・オシンスキーへ』
1921 年 3 月 1 日
1945 年に『レーニンスキー・ズボールニク』第 35 巻にはじめて発表
手稿によって印刷

コメント

レーニンは「これこそ、われわれが農民大衆の信頼を回復するために、全力をあげてとびつかなければならない人物だ。これは基本的な政治的課題で、しかも猶予のならないものだ。ぜひお願いするが、「機関的」な立場にあまり夢中にならないように、この立場から、あまりやきもきしないようにしたまえ。それよりも、農民にたいする政治的態度にもっと注意をはらってほしい。」と「機関的」な立場からものごとを処理するのではなく政治的態度から問題を解決する重要性を指摘している。

私たちが、「人をどう集めるか」「金をどう集めるか」「会議をどう十分なものにするか」を考える場合、一番大切なのは“いまなにをしなければならないか”という政治的課題を明確にし、各人の中で意識化するための努力である。それがあってはじめて「機関的」な立場からの「技術的」な仕組み、指導が組織の中で生かされるのである。この前提が欠けると官僚主義になる。